

価値

—— 時代が求める企業を目指して



個人や社会が企業に求める価値観は、急速に変化し続けています。
その潮流を読み解きながら、私たちは私たち自身が持つ「独自の強み」や「魅力ある価値」を再認識し、
選ばれる価値を見つめ直すヒントを探り、共有しています。
オオスミは、環境の会社としてお客様の求める「価値」を皆様に提供し続けます。

社長メッセージ Message from the President

私たちが大切にしている5つの価値

「お客様は、商品そのものではなく“価値”を手
にされている。」

この考え方は、私たちが日々の業務に向き合ううえ
で、常に大切にしている視点です。

たとえば「腕時計」を例に挙げてみましょう。ある
方にとっては、時間を正確に把握する道具かもしれ
ませんが、別の方にとっては、洗練されたデザイ
ンや高級ブランドのステータス、あるいは健康管
理や予定通知など日常のパートナーとしての利便
性かもしれません。

つまり、「時計そのもの」ではなく、それを通じて得
られる“便利さ”“安心”“自己表現”といった多様な
「価値」が選ばれているのです。

この考え方は、私たちがご提供している環境計
量証明やコンサルティングサービスにおいても
まったく同じです。分析結果や報告書といった“形
ある成果物”をお渡しすることが目的ではなく、
それによって「正しい判断ができる」「次のアク
ションが見える」「信頼できるパートナーと共に課
題に向き合える」といった“成果”や“体験”をご提供
できているかどうか問われていると考えていま
す。

そこでオオスミでは、「お客様が私たちに求める
価値」として、以下の5つの柱を定義し、日々その
実現に努めています。

Be a Good
Earth doctor.



2024年11月 経営計画発表会

1 技術力があること

環境に関する課題の多くは目に見えません。だ
からこそ、見えないものを“正しく測る”ことが、すべ
ての出発点になります。法令対応だけでなく、リス
ク評価や環境負荷低減の支援まで、多様なご要望
に対応できる技術と知見を持つことを大切にしてい
ます。

2 正確であること

数値の信頼性は、お客様の判断や説明責任に直
結します。私たちは精度の維持・向上を使命と捉
え、機器管理やクロスチェック体制を強化。外部認
定機関からの高評価もその裏付けとなっています。

3 スピード感があること

「急ぎの測定をお願いしたい」「現場ですぐ対応
してほしい」——こうした声にお応えするため、柔軟
な対応体制を整えています。事前の工程設計や連携
の強化によって、迅速かつ丁寧な対応を実現し
ています。なお、「スピードがあること」と「スピー
ド感があること」は、似て非なるものだと私たちは考
えています。私たちはお客様から「あの件どうなり
ましたか?」と聞かれる前に、きちんとこちらからお話
しする、お待たせしない対応を目指しています。

4 タイムリーな企画提案ができること

環境分野は法律など制度の改正や技術革新の
スピードが早く、変化への対応が重要です。私たち
は、過去の実績だけでなく、「これから必要とされ
る視点」を積極的に収集・共有し、セミナー開催や



株式会社 オオスミ
代表取締役 大角 武志

情報発信などを通じて価値の先回りを心がけてい
ます。

5 一人ひとりが
魅力のある人間であること

“価値”を届ける最後の決め手は「人」だと考えて
います。知識・経験に加え、誠実さ、丁寧さ、そして
対話力が信頼の土台です。私たちは、定期的
な1on1や内省の場、社内研修などを通じて、人間
力の向上にも継続的に取り組んでいます。

これらの価値は、私たち自身の理想であると同
時に、実際にお客様からのアンケートと、普段の対
話の中から教えていただいた“オオスミらしさ”の
核心でもあります。

そして私たちは、こうした日々の業務に加えて、
「地球のドクター」として持続可能な環境づくりを
担う存在でありたいと、環境の価値を社会に伝え
る企画・イベントなどのCSR活動にも積極的に取り組
んでいます。

私たちは、「地球に暮らす人々に安全と安心を環
境面から提供しつづける」というミッションのもと、
社会の一員として責任を果たしながら、お客様と
ともにより良い未来を築いていきたいと考えていま
す。

最後になりますが、日ごろより私たちをご信頼く
ださい、一緒に課題に取り組んでくださる皆さま
に、心より感謝申し上げます。

今後とも、環境の安心と持続可能な社会の実現
に向けて、皆さまと共に歩んでまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

ベトナム便り

私の“使命と役割”

— My vision and mission in OSUMI Vietnam

2025年10月よりオオスミ・ベトナム(以下、オ
オスミVN)の社長となりました保延勇太と申し
ます。これまで私は、JICAの青年海外協力隊と
してエクアドルで環境教育に携わって以来、環
境と海外に関わる仕事に10年以上関わってき
ました。ご縁がありまして、オオスミの一員と
してベトナムに赴任できたことを大変嬉しく思
っております。

オオスミVNでは、省エネ診断とその対策を
主なビジネスとして展開しています。現在ベ
トナムでは、政府の掲げる2050年までのゼロ・カ
ーボン(脱炭素)達成に向けて、大きく社会が動
き出しています。2028年までにカーボンクレ
ジットの取引市場の開設も計画されており、今
年からその試運転も予定されています。

現地の電気代にも大きな変化があり、2023年に
7.6%、2024年に4.8%、2025年にもすでに4.8%の値
上げが行われています。

このような状況の中、私たちオオスミVNは、日本
品質の確かな診断・提案活動を進め、新たな顧客
の開拓を行っています。一口に顧客と言いまし
ても、製造業一社ごとに設備も、運用状況も違います。
また脱炭素への取り組みは、製造業に留まらず、物
流、建設、農業、サービスなど様々な分野からお引
き合いもいただいております。私たちはこのようなポ
テンシャルをもったお客様のニーズに寄り添いな
がら、日々技術と提案の質の向上について、現地の
協力企業各社のサポートも受けながら研鑽してい
ます。



オオスミベトナム
社長 保延 勇太

オオスミVNは現地に適切なパートナーを見出
し、日本の技術を中心にベトナムへの展開を図
っていますが、これはビジネスとして決して簡単
なことではありません。しかしそんな中、オオスミVN
のメンバーは私に話をしてくれました。

「オオスミがやろうとしていることは決して間違
っていません。きっとお客様、ベトナムの環境のた
めにもなりますから、がんばりましょう!」と。

きっと私の使命は、こういったオオスミVNスタッ
フの思いを受け止めて、彼らの願いを叶えるお手
伝いすることなのだと感じています。日越で協力
して新しいオオスミの扉を開けることができれば
と思います。

時代が求める 企業価値を目指して

寄稿コラム

みなさんは「価値」という言葉を聞いて何を連想するでしょうか？私は狭く、固い、少し変な匂いのする夜行バスの座席を思い出します。

株式会社ピリカを創業した2011年、私は京都大学の研究室に籍を置きつつも、前年に着想したごみ拾いに特化した「ピリカ」というSNSのアイデアの実現に夢中になっていました。プログラミングの勉強とサービス開発に打ち込み、ピリカの初期メンバーと出会い、家賃節約のためにホームレスになり、ごみ拾いSNS「ピリカ」を公開し、京都と東京を夜行バスで行ったり来たりしながら投資家を探す...全てが初めての体験で、右も左も分からないまま動き回っていました。

少しずつアイデアが形になる中で、私は進路のことで悩んでいました。「せっかく京都大学の大学院にまで進んだのだから、卒業して安定した企業に就職した方が良い」というアドバイスは、当時の私にとってとても合理的で、真っ当で、説得力がありました。

大切な友人だった高校テニス部の後輩が突然死したのはその頃でした。彼が亡くなったという連絡を受けて、呆然としながら通夜に出席し、どうしても翌日東京に行かなければならなかった私は深夜バスに乗り込みました。外は大雨で、狭く、固い、少し変な匂いのするバスの座席に座ったところで、涙が止まらなくなりました。ずっと泣いて、ひたすら泣いて、ようやく涙が途切れた頃、ふと心に決めました。

「ああ、僕はもう、一瞬たりとも自分にとって価値があると思えないことはやらないぞ。だって、僕の明日も来ないかもしれないのだから。自分の後輩が死んでしまう年齢になったのだから。その日がいつ来てもおかしくないのだから。」

株式会社ピリカは、そんな決意から生まれた、環境スタートアップです。「科学技術の力であらゆる環境問題を克服する」を合言葉に、環境問題、特にごみの自然界流出問題の解決「だけ」に取り組んできました。環境問題の解決は7歳の時に学校の図書室で手に取った本で問題を知った時からの目標で、それ以外のことには大きな価値を感じられないからです。

「笑われるようなチャレンジ」から生まれた価値

ピリカの事業は、しばしば「誰が使うのか」「儲ける気があるのか」と笑われてきました。ごみ拾いを投稿するSNS「ピリカ」や、AIで路上ごみを検知する「タカノメ」、簡易装置でマイクロプラスチックを採取する「アルバトロス」など、どれも始まった当初は夏休みの自由研究のような取り組みでした。多くの人の目には、私たちが仕事をしているというよりも、ただ遊んでいるように見えたと思います。

ただ、事業に取り組む私たちにとって大切なのは「環境問題を解決する上で本当に必要なチャレンジは何か」という視点でした。外形的な格好良さや一時的な流行ではなく、問題解決における「本質的な価値」や「まだ実証されていない未検証のアプローチ」を追求してきました。結果として、ピリカの事業はどれもユニークで競合が存

在しない、独占市場を開拓するサービスとして、様々な注目を集めるようになりました。

大角社長にピリカを見出してもらったのも、とある雑誌に掲載された記事がきっかけだったと記憶しています。当時私たちが取り組み始めていた、マイクロプラスチックの調査装置「アルバトロス」を使ってマイクロプラスチックを採取する様子を目の前で見させていただき、ぜひ一緒に何かしたいと言っていたのを覚えています。大雨で、調査には全く向かない日でした。

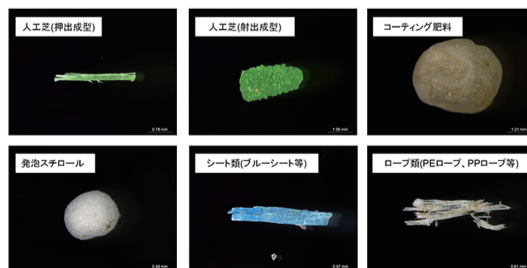
今では社会課題として広く認識されるようになったマイクロプラスチックですが、私たちが取り組みを始めた2016年当時はほとんど知られていませんでした。論文を通じて警鐘を鳴らす研究者が少しずつ現れ始めた頃で、私たち自身もその実態や影響をほとんど理解できていませんでした。しかし、誰も知らない問題だからこそピリカがチャレンジする意味があると考え、夏休みの自由研究のように川へ網を持ち込み、浮遊するプラスチックを採取して調べるところから始めました。

当時のメジャーなマイクロプラスチック調査の手法は船で網を引く大掛かりなもので、河川や水路での調査には不向きでした。そこで私たちは市販の道具を組み合わせ、見た目は不格好でも機能的な装置を自作し、「アルバトロス」と名付けて改良を重ねました。最終的には水中スクーターを応用した独自の採取手法を生み出し、効率的にサンプルを収集できるようになりました。

採取ができて、それが石なのか貝殻なのかプラスチックなのかを判別するには分析が必要です。初めは私たち自身で都の施設を利用し、一つひとつ分析していましたが膨大な手間がかかりました。そこでオオスミのみなさんのお力を借りようになり、数百、数千規模の試料を扱う中で、分析プロセスを最適化しながら体制を整えていただきました。

オオスミとピリカがタッグを組み、日本全国100箇所以上で調査を実施した結果、日本の河川に流出するマイクロプラスチックの20%以上が人工芝の破片であること、さらに約15%が水田で使われる肥料カプセルの外皮であることを突き止めました。これらの成果は、人工芝メーカーや業界団体との協働によるフィルター開発や助成制度の見直し、全農や肥料メーカーらによる「2030年までに肥料カプセルの使用中止」宣言へとつながりました。調査研究が政策や産業界を動かし、環境問題の解決という価値を生んだ瞬間でした。

この取り組みは国内にとどまらず、国連環境計画のプロジェクトとして東南アジアにも展開し、メコン川流域の調査にまで発展しました。ピリカが調査を行い、オオスミのみなさんが分析を担うことで各地域の実態を明らかにし、対策の基盤をつくる国際プ



2020年度マイクロプラスチック等の流出実態調査で見つかったプラスチック製品の例



こじま ふじお

小嶋 不二夫

株式会社 / 一般社団法人ピリカ 代表

富山生まれ、神戸育ち。大阪府大(機械工学)卒。京大院(エネルギー科学)を半年で休学し、世界を放浪。道中に訪れた全ての国で大きな問題となりつつあった「ごみの自然界流出問題」の解決を目指し、2011年に株式会社ピリカを創業。ピリカはアイヌ語で「美しい」を意味する。世界中から4億個のごみを回収したごみ拾い促進プラットフォーム「ピリカ」、画像解析による広範囲のポイ捨て状況調査サービス「タカノメ」や、マイクロプラスチック調査サービス「アルバトロス」等の新規製品を生み出し、全てを事業化。ごみの自然界流出問題の根本解決に取り組む。2021年に環境スタートアップ大臣賞を受賞。

プロジェクトに成長したのです。自由研究のような小さな試みが、社会を動かすインパクトへとつながったことは、私たちにとって大きな誇りです。

「時代が求める価値」を生み出すために

本稿のサブタイトルは「時代が求める企業価値を目指して」です。しかし、私たちは実は「時代が求める価値」を直接的に目指したことは殆どありません。どちらかと言うと「本当に環境問題解決に必要なことは何か」「自分たちが提供できる独自の価値は何か」を問い続けてきました。結果として、時代が本格的に求めるようになるよりも少し早く技術やサービスを確立することができ、時代が求める価値を提供できるようになった、という経験を何度もしています。その歩みに笑わず、伴走してくださったのがオオスミのみなさんです。

これからもピリカは、時に奇妙に映るかもしれないチャレンジを続けます。しかしそれぞれが、環境問題解決という難題に対してピリカだからこそ生み出せる価値だと信じています。時代の期待に応えるだけでなく、時代の期待を超える価値を、ぜひ一緒に創り出していきましょう。



メコン川での調査の様子



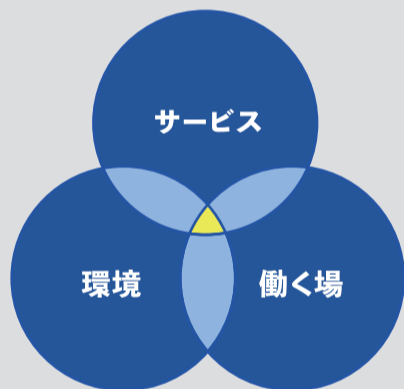
国連環境計画の調査でも活躍したアルバトロス7号機

オオスミの価値を 考える

サービス・環境・働く場

特集

時代が求める企業価値



変化の激しい今の時代、企業に求められる価値は、単なる商品やサービスの提供にとどまりません。お客様に寄り添う視点、持続可能な地球環境への責任、そして社員一人ひとりがいきいきと働ける場づくり。この3つをどう実現し、社会と共鳴していくかが、企業の未来を左右します。本特集では「サービス」「環境」「働く場」という3つの切り口からオオスミの価値を見つめ直し、私たちが持つ独自の強みと魅力を再確認します。そして、変化の時代に「選ばれる企業」であり続けるためのヒントを探ります。

サービス

サービスが良ければ「売れる」時代は終わり。
アイデアで更に一步上に行くサービスを。



貴社の環境法令順守フォローはお任せ！

環境部長®

近年、地球環境は、温暖化による気候変動・廃棄物による環境汚染・森林資源減少による多様性の消失など様々な問題に直面し、対応を迫られています。

日本においては、環境コンプライアンスの社会的要請が徐々に高まっており、自主的な取り組みによる社会的信用の獲得に加え、行政処分等による社会的信用の失墜・操業停止、補償や対策費用といったリスク管理の取り組みが急務となってきています。



また、環境法令は、化学物質・施設1つをとっても多数の法律が絡み合い、かつ条文が難解であるため、自社に該当するかどうかの判断がつかず、挫折してしまうようなケースも少なくありません。

しかしながら、多くの企業は、「環境管理担当者の定年退職や離職で知識が継承されない」「主幹業務に人手を取られ環境管理に手が回らない」「社内の情報の行き違いによる法的な書類の不届」といった問題を抱えています。

オオスミは、環境分野において57年の歴史を持ち、各法律に特化した技術者が多く在籍しています。

行政書士等のパートナー企業とも連携し、届出支援・対策検討を含む幅広いコンサルティングを「環境部長®」というサービスとして提供しています。



異臭の謎を突き止める！

Doctor Smell Good®

Doctor Smell Goodは、悪臭の苦情を“ゼロ”にすることを目指した、におい対策のプロフェッショナルです。経験豊富な臭気判定士の嗅覚と、ガスクロマトグラフ質量分析計（GC-MS）などの専門機器を組み合わせて、現場でのにおいを科学的かつ客観的に



ドクターズメルグッド <https://doctor-smellgood.com/>

分析。原因をしっかりと突き止めたくうえで、現実的で効果的な対策をご提案します。

「においの見える化」によって、曖昧な不快感をデータで伝えることができるようになり、施設利用者や近隣の方々の安心にもつながります。

また、問題解決に向けた臭気対策施工にも対応し、原因の究明から改善策の実施、効果の検証までをワンストップで提供できる点が、Doctor Smell Goodの大きな強みです。

においを単なる“感覚の問題”として片付けるのではなく、企業が抱えるリスクやクレームを解決するパートナーとして、私たちは今後も価値あるサービスを提供し続けてまいります。

働く場

いい働く場がある会社には、笑顔が生まれる。
笑顔があふれる会社は、企業価値も高まっていく。



パパママ座談会



“どんな会社ならワクワク働けるか？”というテーマで社員自身が考え、ディスカッションしていく座談会、通称「ワクスタ」。

2年前からスタートし、20代、30代と年代ごとに座談会を実施してきました。

今年は働きながら子育てをしている人々を対象に「パパママ座談会」として開催し、育児と仕事の両立についてや今まで社員の皆さんに助けてもらったことなどを中心に議論し、フレックス制度の活用についてや、男性社員の育児休暇取得によって、子育て中の人々にとっても安心して働きやすい環境となっていることがわかりました。

社員座談会から実現したこと



実際に、社員座談会から実現したこととして、2つの事例を紹介します。

1つは、社員のお弁当注文をweb注文に変更したこと。従来の電話での注文方法よりも頼みやすくなり、お弁当注文をする人が以前よりも増えました。

2つ目は、カフェテリアにBGMを導入しました。音のカーテンによるマスキング効果によって、業務に集中しやすい環境となりました。座談会の参加者の声からワクワク働けるような環境づくりを取り入れ、オフィスの中から魅力あふれる企業になることを目指します。



環境

SDGsや多様性、環境への配慮。
企業の関心が、明るい地球の未来をつくる。



地球のドクター1Dayツアー

環境調査のお仕事体験

地域の子どもたちにオオスミを知ってもらいたいという思いから、「地球のドクター1Dayツアー～環境調査のお仕事体験～」を開催しました！

今年は立ち上げ始めということで、まずはオオスミ社員のご家族限定で招待しました。分析室のラボ見学やマイクロプラスチックの分析体験を実施し、参加した子どもたちからは、「オオスミの仕事内容を知れてよかった」「名刺交換体験を通じて、お友達が増えた」という声をもらえました。

将来的には、周辺地域の方々に参加できるようなイベントとして、地域との交流を深めていきたいです。活動を通して、オオスミのことを知ってもらい、環境問題と一緒に考えてもらえることを願っています。



研究棟の見学



今年の6月に以前から繋がりのある横浜緑ヶ丘高校の生徒さんに向けて施設見学会を行いました。業務紹介やマイクロプラスチックの判定体験も実施しました。

オオスミとしても次世代への環境教育活動として、生徒さんにとってオオスミの環境調査・分析の仕事への理解を深めてもらう取り組みとなっています。

PLASTIC GAMES

遊びから生まれる環境への意識



ゲーム形式で環境問題に向き合うイベント「PLASTIC GAMES」を開催しました。マイクロプラスチックを色ごとに集めて競い合うなど、ユニークな内容で、当日は約25名が参加しました。

参加者からは「楽しかった」「子どもたちへの環境教育としても実施したい」といった声が寄せられ、楽しみながら環境保全について考える機会となりました。

オオスミ花壇



地域の通学路を明るくしたいという思いから始まった、正門前の花壇づくり。

水やり中に地域の人から「きれいなお花ですね」とお声をかけていただくことも多く、四季折々の花たちが地域との繋がりがオオスミを知ってもらう大切なきっかけになっています。

環境絵画展



オオスミのSDGs絵画展は、「未来の地球を守る」をテーマに、子どもたちがSDGsへの想いを描き取り組みです。今年は66作品もの応募があり、地域とのつながりを深めながら、次世代とともに持続可能な未来を育てています。

カフェテリア

社員同士のコミュニケーションをより活性化させ、それによって新たなビジネスアイデアが生まれる場になってほしいという大角社長の思いから、食堂をリニューアルして作られたカフェテリアスペース。

カフェテリアにあるオオスミロゴマークには「私たちの使命を思い起こし、一人ひとりが“地球のドクター”になるということを意識できる空間にしたい」という思いが込められています。



今ではリラックスしながら業務に集中する場になり、業務効率化への期待があります。また、休憩の際に以前よりも社員同士の会話が増え、コミュニケーションが活発になってきています。

お客様への提供価値 1

お客様が思うオオスミの「価値」とは

多岐にわたる長期調査で得たお客様との関係性

今回挙げますエピソードは、新規環状線トンネル工事に伴う土の調査時の出来事になります。本調査は2021年3月よりサンプリングをはじめ、掘削機械の故障や調布の地下陥没をうけ、工事延期の期間を挟みつつ2024年12月まで3年半以上に及ぶ長期間の調査となりました。その期間に行いました調査は、土だけでなく作業環境（粉塵・有機溶剤）、配合試験、汚泥分析、水質分析、材料解析など多岐にわたり、環境調査が必要な場合にはすぐに「オオスミ!」とお声がけをいただきました。

土の調査だけ見ても合計で245回のサンプリングを行っており、10名以上の調査担当者が関わっています。サンプリングが始まった当初は日程調整も上手くいかず、当日朝に調査の有無が決まるなんて日もありました。そこからお客様と工程調整を見直していく中でスムーズに調査を行えるようになったことを記憶しています。

調査が長引いたことで土の調査や方法にも変化があり、調査項目が増えることもありました。そういった際には、お客様と連絡をしっかりと、納期

や変更点の洗い出しをしてお客様へ納得してもらいながら社内調整をしていたことも記憶に新しいところです。

全ての調査が終了して担当のお客様へご挨拶に伺った際には、非常に満足されていた様子で、「本当はこちらからお礼を言いに伺いたいくらい」とまでおっしゃっていただきました。

オオスミ全体で色々な部署の方と協力しながら、お客様の求めるスピード感に応え、全調査において1日の納期遅延もなく無事案件を終了できたからこそ、言っていただけのお客様の言葉と受け止めています。

(調査第一グループ 田邊)



お取引様インタビュー

製造業 D様

担当者と建設的な意見を交わせる関係性

Q1. オオスミとのお付き合いは?

D様: 私が担当となり5年が経ちますが、その前からの付き合いで、報告書は20年前からあります。

Q2. オオスミにご依頼されている理由は?

D様: 私は環境部門担当として、作業環境・ばい煙・臭気測定などを依頼しております。現場対応時に技術の方からのアドバイス、柔軟な対応などが理由です。耳よりな情報を届けてくれる無償のウェビナーでは、弊社に有益な情報が無いかと、毎回参加の登録をさせていただいております。できる限り視聴するようにしております。

Q3. オオスミに長くご依頼いただける理由は何ですか?

D様: 前任者からは「オオスミから測定会社を変えないでほしい」と言われていまして、代々引き継がれてきたからだと思うんです。もちろん私も変えるつもりはありませんよ(笑)。

オオスミ: 営業担当も変わっておりますが、担当者が変わってもオオスミという会社を見ていただけているのは非常にありがたいです。引き続きお願い致します。

お客様への提供価値 2

品質を支える検査機器

私たちのサービスが評価を受ける背景には、「見えない努力」があります。その一つが、品質を守るための検査機器の存在です。厳しい精度と信頼性を求められる中で、検査機器はサービスの完成度を左右する重要なパートナーとなっています。

地中レーダ



コンクリートや地中内部の埋設物の確認を行う装置です。電磁波をコンクリート及び地中内部に向けて送信すると物質の境界面で反射しその反射波を受信します。それにより得られる反射波形を

解析して地面下の状態の探査が可能です。探査可能深度は最大1.5mで、コンクリート面や地表面でアンテナを移動させて使用します。

騒音計



音・騒音の調査に使用します。音の発生源に向けて音の大きさ(デシベル:dB)を測定し、数値化することができ、機材の種類によっては周波数も測定することが可能です。

機材の性質上、音を数値化するものなので、夏場のセミの鳴き声や鳥の鳴き声など周りが騒がしい場合は、対象の音がかき消されて測定が難しくなります。

大気質測定機器



大気質の調査に使用します。機器を立ち上げることで、対象となる物質を自動的に測定してくれます。1年間連続で測定することも可能です。機器の種類にもよりますが、二酸化窒素や浮遊粒子状

物質を測定できます。暑い時期は対策を実施しないとオーバーヒートする可能性があり、スポットクーラーなどを使用し、測定を実施します。

X線回折装置



観察対象へのX線照射により得られる回折線を検出して物質の結晶構造を同定できる機器です。オオスミのアスベスト分析ではアスベストの種類

の同定や定量に利用します。試料を粉砕して機器にセットするという簡便な試料調製で測定が可能で、結果は波形として視覚化され、それを標準物質と照合して物質の同定を行います。

ICP-MS (プラズマ質量分析計)



無機元素を測定する機器で、主に水や土に含まれる金属の測定に使用しています。機器内で生成したプラズマにより試料に含まれる元素をイオン化し、イオン化された元素を検出することで目的

元素の含有の有無や量が分かります。1回の測定で多元素一斉分析が行えること、高感度のため極微量元素の濃度を迅速に測定できることが利点です。

電子顕微鏡



この顕微鏡は電子線を試料に照射し放出された信号を検出して像として写すことができます。試料表面の凹凸や微細な形態を観察でき、放出された信号の一部から元素分析も可能です。これらの

特徴から、破損品の破断面の形態から破損原因を探ることや、異物の形態観察や元素の同定から物質を特定することに用いています。

クイズ

これって何? 価値あるの?

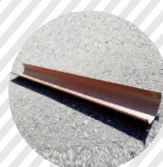
社内で見つけた「不思議」なもの。これって、どんな役割を担っているんでしょう? 皆さん、わかりますか?



1 ネイル
プッシャー



2 チップ
カッター



3 雨とい
(軒とい)



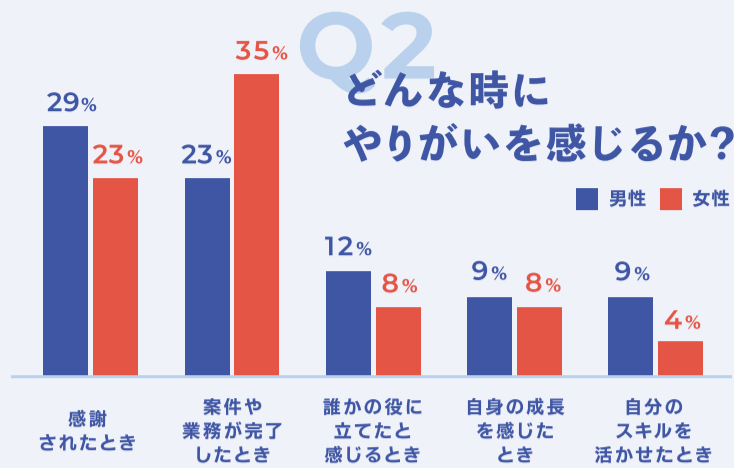
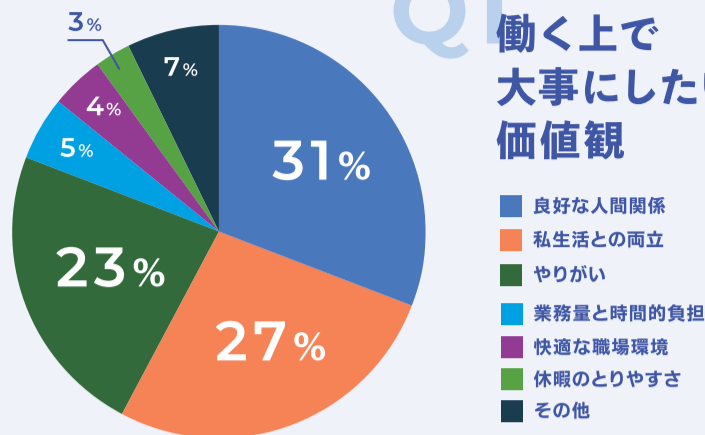
4 ハンディ
ミスト

答えは巻末で!

EMPLOYEE VALUES

社員にとって「仕事への価値観」は？「やりがい」は？ みんながどう感じているのか従業員に聞いてみました。(回答数:92人)

社員の価値観

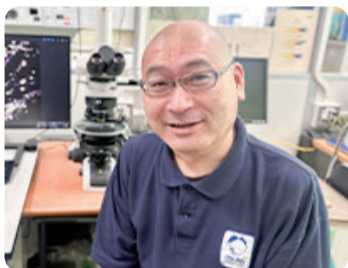


スキルや技術でお客様へ貢献します

社員紹介 — マイバリュー

経験という名の宝物

調査第三グループ
二戸 正弥



私にとっての価値、それは『自身のこれまでの経験を次世代へ繋いでいくこと』です。

18歳で入社をし、32年が過ぎました。これまで水質や、作業環境、室内空気環境、PCB、農薬といった分析業務に加え空調機メンテナンスや工業薬品製造の経験を経て、現在は建材中のアスベスト含有分析を行っています。さらに、社内設備および産業廃棄物の管理に携わり、建物の構造や施工方法などを踏まえ上でアスベスト分析を行うことができるようになりました。これまでの取り組みが認められ、外部での講師や講演会、評価事業の委員を務めさせていただき、産業規格 (JIS) の定量分析の製作委員として、JIS規格書に「オオスミ」の名前を残すという偉業を達成することができました。現在では、これらの経験をもとに、後輩へのアドバイスや育成をしています。これからも、オオスミの名前をより多くの人に知っていただけるよう頑張りたいです。

これまでの経験を次世代へ繋いでいくこと

見えない価値を見せる営業

営業グループ
三浦 政道



オオスミの営業品目は形の無いものをサービスとして提供しています。そのため、見積を提出すると、高いのか安いのか分からないといったケースがよく発生します。缶コーヒー1本150円はちょっと高いな、のような感覚があれば良いのですが、計量証明事業では難しいです。

だからこそオオスミの営業は楽しく、メンバーも営業好きが集まっています。例えば、原因不明の異臭に長年悩んでいる方の原因解決に20万円は高いのか安いのか？この価値はお客様それぞれですが、ほとんどの企業様に喜んでいただいております。

定価が無いものに価格を付けて、業務を遂行し、納品時に価格以上の価値をお客様に実感して頂いた時が働いていて良かったなと胸躍る瞬間です。この記事を読んで下さっている方からのご依頼も心からお待ちしております。

数字好き、推理小説好きが役に立つ

縁

調査第一グループ
立尾 崇真



私が大切にしていることは人との関わりや繋がりといい「縁」です。

私は思わぬところで出会った人と仲良くなったり、初めて会った人とい話し込んでしまったりといったことがとても楽しいと思っています。私はそういった自分の知らないものを知ることができる面白さから、一期一会の縁を大切にしています。

私の推しチーム

調査第二グループ
松野 喜一郎



私の大切にしているモノは推しのサッカーチームです。イギリスのチェルシーというチームです。好きな理由は、魅力的な選手が多く、その選手たちが繰り出す素早いカウンター攻撃などに魅了されたからです。

写真は現地に観戦に行った際の写真です。これからも応援を続けていきます！

Newface 新人紹介 — マイバリュー

2025年入社 新人5名

こんな自分を活かしていきます！

ミュージアム回遊者

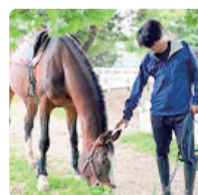
調査第二グループ
石山 瑛博



私は、いろいろなことに興味を持つ「好奇心」を大切にしています。この世の中に価値のないものはないと思っています。どんな事柄も知れば知るほど興味が湧いてきます。特に博物学は、自然物や歴史の遺産と向き合うことで、自然や過去とのつながりが感じられるので、積極的に赴いています。今後はこの好奇心を仕事に生かしていきたいと思ひます。

私の相棒

調査第三グループ
富山 公晴



私は馬術をたしなんでいます。相棒とは10年の付き合いです。社会人になり、時間や費用の面で馬術を続けるか悩んだ時期もありました。年を重ねた相棒を手放す気にはならず、自分の手で最後まで面倒を見ると決めました。

大切な存在を守り一緒にいたい気持ちが、今の自分の行動や仕事への原動力になっています。

継続は力なり

分析技術グループ
園部 陽右



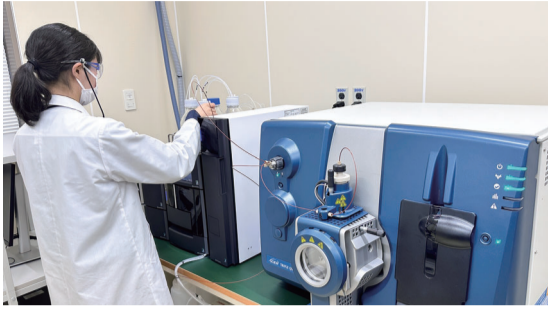
私が大事にしていることは継続し続けることです。

私は、課題に直面したときは、解決策を考え、取り組みを続けることでそれらを解決してきました。最近の成果では、私のTOEICスコアは最初は300点ほどでしたが、課題解決の継続で670点にすることができました。

今後も、おごらず課題に継続して挑戦したいです。

NEWS オオスマニユース

PFAS分析始めました



オオスマミではPFASの分析を始めています。最近LC-MSMSという新たな装置を導入することで、PFASの精密な分析が可能となっています。

PFASとは有機フッ素化合物の総称で、代表的な物質としてPFOS,PFOAがあります。これらの化合物は分解されにくい性質を持つため、人の体内に入ると蓄積されやすいといわれています。また、環境に放出されたPFASも環境中に残りやすい特徴があります。PFOS,PFOAは泡消火剤や撥水剤など他にも幅広い用途がありましたが、2009年以降に環境や生物への影響の懸念から日本を含む多くの国で製造・輸入が禁止となっています。

また、水道水について2020年に暫定目標値が定められ、PFOSとPFOAの合算値が1L当たり50ng以下と設定されました。飲料水からの摂取を防止するため、水道事業者等により管理を行っています。飲料水だけでなく、環境中へ過去に様々な形で放出されたPFOS,PFOAが残っているため、河川、湖沼および海域や地下水などについて環境調査が行われています。

実際にPFASに関する調査は水質以外にも廃棄物、土壌、排ガス、消火器の製品など多岐にわたっています。有機フッ素化合物（PFAS）分析のご相談があれば、是非当社にお声がけ下さい。

マイクロプラスチック（食品）

近年、マイクロプラスチック分析のご依頼は、海水や河川水だけでなく多様なサンプルについて頂いております。特に最近では、ニュースの影響もあってか食品のご相談が多く寄せられています。

食品の場合、目に見えないほど小さい数十μmサイズのマイクロプラスチックの分析についてご要望いただくことが多いです。分析の際は、目に見えないマイクロプラスチックが予期せず混入することのないよう工夫しています。

そのうえで、食品からプラスチック候補粒子を抽出し、本当にプラスチックかどうか測定装置で成分を分析します。プラスチックにダメージを与えないように食品の成分を溶解する必要があり、この工程にいつも苦労しています。

実際に分析をしてみると、マイクロプラスチックが見つかることがあります。調査結果は包装容器の見直しや、マイクロプラスチックの食べ方の工夫などにご活用いただきました。「うちの製品にも含まれているのかな?」と思った際には、ぜひ一度検査してみてくださいはいかがでしょうか。



森の中で学ぶ、守る ネイチャーポジティブ体験



オオスマミではCSR活動の一環として、生物多様性保全活動に取り組んでいます。

2025年1月と9月の2回にわたり、「横浜自然観察の森」にて「ネイチャーポジティブ体験」を行いました。

1月は社員11名がキンモクセイ（外来種）の伐採に挑戦。初めて使う大鋸や剪定鋏に苦戦しながらも、雑木林ファンクラブの方々のサポートのもと、安全に配慮しつつ作業を進めました。「保全活動なのに伐採?」との声もありましたが、草地の維持や在来種保護の観点から重要な作業であることを学びました。

また、9月には社員7名が、草地の環境管理のためセイタカアワダチソウ（外来種）の除去作業を実施しました。在来種と外来種の関係性や生態系のバランスが崩れるリスクなど、生物多様性の基本的な考え方を学び、草地・林縁環境との関係理解を深めるワークショップや座学も行いました。根から引き抜く作業を通じ、生態系保全の難しさと必要性を実感しました。活動を通じ、社員一人ひとりが環境とのつながりを見つめ直す貴重な時間となりました。今後も地域の自然や人とのつながりを大切にしながら、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

省エネしていないと 商談が減る時代の到来。

エコ意識の高低差が
企業の業績や採用に響く今の時代。

ならば、1日も早く会社としてのエコへのシフト。

早いほど企業価値はグンと高まり、
世界に羽ばたくチャンスが広がります。

そう、地球のためだけじゃないのです。

これは自分たちの生き残りもかかったシフトです。

環境調査会社のオオスマミのECO/FIT

善は急げ。まずは省エネ診断を。



私たち「地球のドクター」の仕事

環境調査・分析・対策事業	コンサルティング・セミナー	プロが解説!
水質、土壌、建設発生土、産業廃棄物、PCB	環境部長*（環境法令順守サポート）	
アスベスト、ばい煙・排ガス、作業環境測定	エコアクション21認証取得支援	
室内空気環境、省エネ、騒音・振動	省エネコンサルティング	
悪臭、ドクター・スメルグッド*（ニオイの原因特定）	労働衛生コンサルティング	
マイクロプラスチック、材料解析・異物分析	化学物質管理者講習	
他	各種環境セミナー・講師派遣	オオスマミ 環境ウェビナー

すべての事業分野における膨大なソリューション。これはオオスマミが培ってきた強みです。

株式会社オオスマミ

本社
〒246-0008 横浜市瀬谷区五貫目町20-17
TEL 045-924-1050

東京支店
〒101-0064 千代田区神田猿樂町2-1-14 A&Xビル 5F
TEL 03-3219-5021

? オースマイルって?

O-smileは造語ですが、分解すると『O』と『smile』に分けられます。

この『O』は株式会社オオスマミの頭文字。『smile』は字のごとく笑顔です。Oの smile、つまり私たちオオスマミで働く人間は、常に心に笑顔を持っていたいと願う心からこのような名前にしました。

認証取得・更新



編集後記

多様な価値観が求められる現代社会において、改めてオオスマミの『価値』とは何かを見つめ直したいと考え、このテーマを選びましたが、いかがだったでしょうか。今回の特集が、読者の皆様にとって、少しでも有益な情報となれば幸いです。大変お忙しい中、執筆にご協力いただいた皆様、心より感謝申し上げます。（編集委員一同）

クイズの答え

1. ネイルプッシャー **アスベスト分析**
間に空気が入らないようにスライドガラスにカバーガラスを乗せる際に使います
2. チップカッター **大気質調査**
ハート形のやすりで、ガラス管に傷をつけて折りやすくする道具です
3. 雨とい(軒とい) **土壌調査**
掘削した土壌を深度毎に並べ入れることで、深さ方向の土質の変化が明瞭になります
4. ハンディミスト **作業環境測定**
気流を見るのに使っています